平成２３年度　日南市立南郷小学校　学校関係者評価書

4段階評価　4・・・期待以上　3・・・ほぼ期待通り　2・・・やや期待を下回る　1・・・改善を要する

評価項目		評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評定	外部評定	学校関係者評価コメント
学びの基本づくり	授業力	1　よく分かる授業を目指し、１時間の授業の充実と個に応じたきめ細かな指導を行う。	・校内研修で一人一授業を行ったり「活用する力」を高めるための授業改善について実践研究を行ったりしたことで、授業力向上につながった。	3	3	○　「授業力の向上」については、保護者や児童の評価は高い。教師自身の評価も概ね高い。職員全員が授業し、自らの授業力の向上を目指そうとする姿勢は評価できる。このままの取組を維持してもらいたい。今後は地域の方へ授業の様子を発信する活動や学校関係者評価委員の参観などの取組もあるとよい。 ○　ゲーム世代である児童のコミュニケーション能力の低さが論議となっているが、今後も表現力も含めて、人との適切な関わり方について指導していくことが生きる力の育成になると考えられる。
	基礎基本	2　チャレンジタイムにおける漢字・計算の習熟、朝の読書の充実を図り、「読み・書き・計算・コミュニケーション力」の向上を図る。	・国語の能力において、４つの学年で８０％を達成した。ただ、計算力については、上学年になるに従って達成率が低い結果となった。今後、さらに習熟を図る必要がある。			
	コミュニケーション	3　相手を意識した聞き方・話し方の定着を図る。	・話形表の活用やスピーチ活動を継続して実践すると共に、授業の中で自分の考えを表現するための手立てとして、発語例を作成して活用を図った。しかし、保護者の評価が６７％、教師の評価が６９％と低いので、今後もさらに正しい聞き方、話し方の指導の在り方を研究していく必要がある。			
	家庭学習	4　家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図る。	・宿題や宅習を忘れずにすることのできる児童の割合は９０％を超えるが、「進んで」できる児童はその内の６０％程度である。今後も、家庭との連携し、家庭学習の習慣化を図りたい。			
豊かな心の基本づくり	教育相談	5　児童理解のための教育相談の充実を図る。	・学校が楽しいと肯定的な回答をした児童の割合は８９％であった。今まで以上に生徒指導の三機能を意識し、授業や学級経営を行う必要がある。	3	3	○　親として育っていない大人が増えてきている現状もあり家庭教育の在り方について保護者の意識改革が必要であり学校としての取組も期待したい。 ○　あいさつは生活上の基本であり、地域でも声をかけるようにしている。児童は地域であいさつができていないという報告があったが、今後もあいさつの大切さについて繰り返し指導してほしい。 ○　児童も心の中に様々なものを背負って登校している。そのような児童の生活環境や内面の理解も大切なことである。
	あいさつ	6　学校や地域社会で進んであいさつのできる子どもを育成する。	・児童と保護者、教師とのあいさつに対する評価に差がある。児童はあいさつをしているつもりでも、実際には声が小さかったり、あいさつに気付いていなかったりすることが多いようである。常時、声を出すことの指導が必要である。			
	きまり	7　「きまりよい廊下歩行」「無言清掃」を守る児童を育成する。	・廊下歩行や無言清掃については、児童、保護者、教師共に８０％を達成していた。特に無言清掃は、遊及会を充実させたことで、成果が表れてきている。今後も継続指導と称賛を行っていきたい。			
	思いやり	8　人権教育の充実を図り友達に対して思いやりのある言動のできる児童を育成する。	・「友達に対して思いやりのある言動をしていますか」の項目で肯定的な回答をする児童は８８％であった。目標は達成しているが、称賛の場を利用し思いやりある言動を紹介することで、周りの児童にも思いやりの大切さを意識させる必要がある。また、友達を呼ぶときには「くん」「さん」を付けることを身に付けさせたい。			
健康安全の基本づくり	体力向上	9　体育の授業に「わくわく運動」や業間に「体力つくり」を取り入れることにより、児童がいろいろな運動に親しむ機会をつくり、バランスのよい体力の向上を図る。	・体力向上プランに基づき、計画的に実践することができたが、なわとび旬間は、インフルエンザの流行により期間が短くなってしまった。	3	3	○　「早寝・早起き・朝ごはん」の取組は、やはり家庭（保護者）の意識を変えていくことが大切であろう。朝ご飯はほぼ９９％の児童が食べているとのことだが、今後は朝食の質も話題にする必要がある。 ○　昔のような児童の外遊びがみられない状況がある。集団遊びの取組や縦割り集団での活動など、児童が遊びながら体力向上を図る工夫も必要である。 ○　心身の健康は学力向上を支える大切な要素である。学校では児童の健康管理に関し、計画的に取り組んでいただいている。
	食育推進	10　栄養教諭との連携を図り、給食時間や各教科、学級活動等における食に関する指導の充実を図り、食に関心をもつ児童を育成する。	・ランチルームにおいて食の指導ができた。また、各学級においても、給食の時間や学級活動などで、食に関する指導の充実が図ることができた。			
	健康管理	11　ＰＴＡ活動や家庭と連携しながら、「早寝・早起き・朝ごはん」の意識の向上を図る。また、自分の体は自分で守る児童の育成に努める。	・各学級での、手洗いうがい、換気の指導を行い、感染症予防の徹底を図った。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」の実態把握を行った結果、早寝７４％、早起き９４％、朝ご飯９９％の結果であった。早寝の達成率が低いので、今後も児童と保護者への啓発を図っていきたい。 ・むし歯治療勧告を３回出したが、６０％には至らなかった。 ・学校保健委員会は、感染症予防のため今年度は１回の実施となった。			
	保健安全	12　毎朝の健康観察や特定の運動（水泳・運動会・持久走）の事前健康調査を確実に行い児童の健康状態を把握する。	・水泳、持久走に関する個人健康観察カードが十分に活用できた。 ・水泳、運動会、持久走前の健康調査を実施し、配慮の必要な児童については全職員で共通理解を図ることができた。			
教育課程全般	教育課程	13　本校独自の特色ある教育課程を編成し、知・徳・体の調和のとれた児童を育成する。	・校時程の改善を図り、行事の精選や実施の工夫を行ったことで、大変バランスの取れた教育課程を編制することができた。保護者の評価が８８％、教師、地域の評価は１００％だった。	3	3	○　本年度も特色ある取組を実施することができたようだ。特に学校地域支援本部事業が文部大臣表彰を受けたのは喜ばしいことだ。新聞でも学校の取組がよく掲載され、地域住民としてもうれしい。 ○　参観日については、今後もの保護者や地域の方々の参加が見られるよう期待したい。また、参観率に比べ、懇談率が低いように思えるが、「親と担任がしっかりと話し合える場」を確保してほしい。
	参観日	14　参観日等を魅力あるものに工夫し、広く学校の取組を発信する。	・参観率７５％、懇談率５８％という結果だった。特に１２月、１月といった寒い時季になると参観率、懇談率共に低くなる傾向がある。今後も、保護者の要望を取り入れながら、魅力ある参観日にしていきたい。			
	総合的な学習の時間	15　総合的な学習の時間（ふるさと学習）の充実を図り、郷土を愛する心を育てる。	・地域コーディネーターが専属していることで、大変積極的に地域の人材を活用することができた。児童の満足度が９６％に達しており、保護者の評価も９０％を超えていた。			
	連　携	16　保護者及び地域の各種団体や施設等との交流を行い、体験活動を積極的に行う。	・少年自然の家が企画する催し物や図書館の読み聞かせなど、各種団体が主催する校外行事の啓発に関する教師の評価が５７％、保護者の評価も６８％と目標を達成していなかったので、今後も地域の行事や校外行事を把握し、通信等で積極的な参加を呼びかけていきたい。			

【総　評】

1　本年度の取組について
○　学校地域支援本部事業をはじめ、南郷小学校の特色と言える取組を今後も積極的に進めてもらいたい。特に「学びの基本づくり」（学力向上）については、今後も大きな課題と言えるので、児童一人ひとりの個性に応じた支援をし、基礎基本の確実な定着を図る取組を継続して確実に行っていただくことを期待している。

2　次年度への改善に向けて
○　学校の取組をもっと地域へ発信してほしい。学校の評価をする際にも情報が少なく、記述しにくい部分もあった。
○　学校と家庭の相互理解を図ると共に、家庭の教育力を高める働きかけを今後もさらに強めていくことが求められる。